

第4学年 社会科 学習指導案

松山市立湯築小学校 教諭 北谷 徳子

1. 単元名 ごみのしよりと利用

2. 単元の目標

- ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。 (知識・技能)
- ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連で付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考えたり、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題に主体的に調べ解決しようとする態度と共に、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、地域の人々の協力などに着目して、見学したり調査したりして調べ、これらの事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基にごみの減少のために自分たちが協力できることを考える。

また、松山市では、事業系紙ごみのリサイクル化事業を導入したり、プラスチック類と紙類の分別方法を変更したりして、可燃ごみの減少化と資源ごみの再資源化に努めている。地域と協力して、ごみの出し方などに関するきまりを決めており、そのきまりを守ることが、地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上のために大切であることにも気付かせる。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期から社会科において、学習問題を考え、予想し、調べ、まとめるという問題解決的な学習の流れで行ってきた。「わたしたちの県」の学習で地図を見ながら自分の体験を話す児童、地域の特産物や産業等知識が豊富な児童は、社会科への意欲は高い。しかし、地図を見ても分からない意識が先立って、覚えることに重点を置き、社会科への関心の低い児童も見られる。また、学習した内容をまとめることが難しいと感じている児童もいる。そのため、キーワードを示して、ワークシートやロイロノートを活用してまとめるなどしている。

本単元では、児童の家庭や学校から出るごみの種類や量を調べたり、自分たちが住んでいるごみ集積所の様子を調べたりするなど、児童が主体的に学習できるようにしていく。単元の終末では、自分たちの生活を振り返らせ、ごみを減らすためにどのようなことができるかを考え、行動できるようにする。

(3) 指導観

本単元では、まず、ごみを出した経験について話し合ったり、家庭や学校のごみを調べたりして、ごみの収集や処理方法について学習問題を設定し予想を立てる。

次に、ごみの収集の様子を調べて話し合い、ごみを出す場所や場所が決まっていること、ごみを種類別に出していることに気付かせる。そして、ごみは市によって組織的に集められ処理されていること、燃やせないごみは、資源ごみとして再利用に努めることを理解するとともに、ごみの収集は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを捉えさせる。さらに、実際に清掃工場の見学を取り入れることで、燃やせるごみや資源ごみの処理の様子、働く人々の願いを調べ、衛生的な施設で処理している清掃工場の工夫や努力に気付かせるようにしたい。

最後に、ごみが増えることに対する危機感をもたせるとともに、ごみを減らすための市の取組を調べさせる。そして、健康な生活や良好な生活環境の維持と向上のために、ごみの出し方などのきまりを守り、自分たちにできることはないかを考え、実践への意欲をもたせたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みを理解し、ごみの減量、廃棄物の再資源化など、資源の循環を行う社会を目指すこと。

有限性…燃やさないごみや粗大ごみは可能な限り資源として再利用できるように努力していることや、資源の種類に応じて再利用を進めていることやマイバックや資源物の回収に取り組むことで、資源の有効活用に努めていること。

連携性…生活を見直し、自分たちが今できることを考えて行動すること。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

生活環境の維持と向上のための事業や対策を理解し、持続可能な社会の担い手として自分ができることを考え、実践する。

進んで参加する態度

生活を見直し、自分たちが今できることを考え行動すること。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

生産者も消費者も地球環境も豊かになるような生産を迫及することが大切。

自然環境、生態系の保全を重視する

衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにする。

幸福感を重視する

廃棄物の衛生的な処理や資源の有効活用は、人々の生活環境の向上や地球環境保全につながる。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられる町づくりを

12 つくる責任つかう責任

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① ごみのしよりの仕組みや再利用、人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、ごみの処理のための事業の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめることを通して、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>① ごみのしよりの仕組みや再利用、人々の協力などに着目して、問いを見だし、ごみの処理のための事業の様子について考え表現している。</p> <p>② ごみを処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良好な生活環境を関連で付け、ごみの処理のための事業の果たす役割を考えたり、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>① ごみを処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を迫及し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全12時間）

学習活動	○学習への支援	評価 ・ 備考
<p>1 ごみを出しに行った経験や家庭のごみの写真資料から、ごみの種類や量について、関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちはどのようなごみをどれくらい出しているのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実際にごみの内容や量を調べるなど、実感として捉えられるように工夫する。 ○ 地域のごみ収集所を白地図に表すなどの工夫をする。 	<p>イ① (思判表)</p>
<p>2 自分たちが出しているごみの種類や量の多さに気付き、ごみの収集や処理方法について個々の疑問を出し合い、学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが出しているごみは、だれがどのように処理をしているのだろう。 ・クリーンセンターなどを見学して、処理の仕方について調べたことをまとめていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごみの分別に気付かせ、なぜ種類別に出すのかに疑問をもたせる。 ○ ごみの収集や処理方法、利用の仕方について調べたいことを話し合い、まとめ方も考える。 ○ クリーンセンターを見学する場合、大切なことをメモしたり、絵や図にかいたりして、まとめるようにする。また、疑問については質問するようにする。 	<p>ウ① (主体的)</p> <p>イ① (思判表)</p>
<p>3 自分たちがだしたごみがどのように処理されているかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーンセンターでは、どのようにごみを燃やしているのだろう。 ・粗大ごみはどのように処理しているのだろう。 <p>4 ごみを燃やした後の工夫には、どのようなものがあるかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを燃やした後の灰はどのように処理されるのだろう。 ・ごみを燃やした時の熱をどのように利用しているのだろう。 <p>5 資源ごみや埋め立てごみ、水銀ごみは、どのように再利用されたり処理されたりしているかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びんやペットボトルはどのように再利用されているのだろう。 ・再利用できないごみはどうするのだろう。 ・身のまわりにリサイクルがないかを考えよう。 <p>6 松山市全体のごみの移り変わりから、どのようにごみを減らす取り組みをしてきたのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松山市の人口とごみの量」は、どのように移り変わっているのだろう。 ・ごみを減らすために、松山市では、どのような取り組みが行われてきたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごみ処理のしくみ、問題点、従事する人々の工夫や努力などを調べるようにする。 ○ 可燃ごみは、高温で燃やし、有害なガスが出ないようにしていることを捉えさせる。 ○ ごみを燃やした時の熱の利用について、調べるようにする。 ○ 調べたことは、ロイロノートなどに、絵や図表、写真を使って、分かりやすくまとめるようにする。 ○ 資源ごみを再利用したり、埋め立てごみ、粗大ごみ、水銀ごみを工夫して処理したりしていることについて調べるようにする。 ○ ごみを減らすために、家庭・学校・地域がそれぞれどのような取り組みを行っているかを調べるようにする。 ○ 自分たち出したごみの処理に大変な労力がかかっていることを理解させる。 	<p>ア① (知・技)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>イ① (思判表)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>ア② (知・技)</p>

<p>7 まとめたことを発表し、ごみの処理の仕方について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で分かったことや考えたことを伝え合おう。 <p>8 ごみを減らすために、自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や家ではどんなことができるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ごみの処理は、計画的・協力的に進められており、健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることについて、自分の生活との関りで考える。 ○ 自分との生活との関わりに着目させるようにする。 	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
---	---	---

6. 本時について (10 / 12 時間)

- ・目標 松山市全体のごみの量の移り変わりから、ごみを減らす取組への関心を高める。
- ・評価基準 イ② (思判表)
- ・本時の展開

主な学習活動	○学習への支援 ・予想される児童の反応	◇評価
<p>1. 前時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>松山市のごみの量は、どのように移り変わっているのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資源ごみは、どのように処理されるのかを振り返る。 ○ クリーンセンターで処理できなかったごみは、どのように処理されるのかを振り返る。 	
<p>2. グラフを見て、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山市の人口の移り変わり ごみの量 <p>3. ごみの量が減ってきている理由を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山市のごみの量は、どうして、だんだん減ってきているのだろう。 他に、ごみの量が減っている理由はないかな。自分たちの生活の中で、考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人口が増加していることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和44年30万人から次第に増え、平成20年以降50万人を超えている。 ○ ごみの種類とごみの量の変化に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和44年は、燃やせないごみと可燃ごみ。 ・平成元年から平成10年まで、増えているけれど、そこから減ってきている。 ・可燃ごみが減っている。 ○ これまで学習してきたことを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・集積所やゴミ出しのルールが決まったから。 ・再生工場で、また資源として使えるようにしているから。 ・クリーンセンターで工夫してごみの処理をしているから。 ○ 自分や家庭との関りに着目させ、自分たちができることへとつなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋有料化。 ・マイバック。 ・お店の回収ボックス。 	<p>ア① (知・技)</p>
<p>4. 学習のまとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちが出したごみの量の移りから、ごみを減らす取組への関心を高めさせる。 	<p>イ② (思判表)</p>

